

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年1月16日

【評価実施概要】

事業所番号	1590300065
法人名	有限会社 藤田企画
事業所名	グループホーム 癒しの家
所在地	新潟県上越市清里区岡嶺新田140-1 (電話) 025-528-3210
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 19年 11月 19日

【情報提供票より】 19年 10月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 11月 9日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤 9人、非常勤 1人、常勤換算 8.95人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	一部2階 建ての	1 階 ~	部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000/50,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	315 円	昼食	420 円
	夕食	630 円	おやつ	105 円
	または1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (19年 10月現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2		2 名	
要介護3	2 名	要介護4		1 名	
要介護5	1 名	要支援2			1 名
年齢	平均 87 歳	最低	82 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	服部外科医院、清里診療所、三交病院、清里歯科診療所
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の名前のとおり「癒し」の家となるよう、相手の心を思いやり、心のこもったサービスを提供することを、とても大切にしており、それを具体化させるために月及び毎日の介護目標を定めながらケアの提供に取り組んでいる。これらの取り組みは、これまでの地道な地域への働きかけ、運営推進会議の開催をきっかけとして、地域、そして家族にも理解されてきている。近隣には保育所や小学校があって、お互いに行き来する関係があったり、近くの老人ホームとの交流もある。また、ボランティアの受け入れも多く、その活動も継続的であり、事業所としては年に一回、ボランティアに対しての感謝祭を行なっている。家族等の面会時にも気配りをし、お茶などのほかに手づくりの漬物などを添えたり、お昼前後の面会であれば、食事をさりげなく用意するなど心のこもった接待がされている。食事については、特にこだわっており、副食は4品以上としたうえで、既製品などは使わず、新鮮な食材を使って手間ひまをかけながら作られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価の際に、「外食ドライブ等の際に職員の服装が皆お揃いのエプロンとジャンパーであることについて、再考してはどうか」という調査員の気づきを参考に、職員全員で利用者の目線で検討し、改善に取り組んだ。外出の際は職員全員私服とした結果、周囲から浮いた感もなく、より自然な雰囲気ですべて外出できるようになった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価への理解を深めるため、自己評価は職員が分担をしながら作成をしている。その分担範囲は毎年変えられており、職員による評価の全体的な理解を図れるように取り組まれている。評価に対する改善策は、職員全員により話し合いを行って立てられている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議へは、評価の取り組み状況や職員教育の内容についても報告されており、さらに運営においては、報告に終始しないよう、意見交換に重点が置かれていることから、実際に様々な質問や意見が委員から出されている。市の出張機関である総合事務所が事業所の近くにあることもあって、運営推進会議以外においても、市の担当者へ気軽に電話をしたり、お互いに行き来する機会をもっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>介護計画の同意を得る際には、同時に書面にて家族からの要望を聞く仕組みがあり、事業所の運営に関しては、面会や連絡など家族との接点があるときに、意見などないかを積極的に聞くようにしている。サービスの質の更なる向上のため、家族からは直接ホームには意見を伝えることが難しい場合もあることを考慮し、家族が意見を言いやすい外部窓口の整備や利用促進についても話し合っていくことを期待したい。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所も町内会の一員となって、地域の防災計画に事業所も位置付けてもらったり、回覧板を回しあったりしている関係がある。地域で行う敬老祭や祭りにも、利用者が地域の一員として参加している。また、地域の人が花や野菜などを持ってきてくれたり、利用者の散歩の際や地域の人が通りかかるときには、利用者と地域との交流が自然に図られている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人として、情やまごころ、思いやりの「心」が何よりも大切なものと捉え、理念として掲げている。さらに法人の理念に基づいて、各事業所で具体的な月の介護目標や日々の介護目標を定めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表者により年頭に理念についての話がある他、毎日の唱和によって職員は理念を確認している。それぞれの立場で理念を実現するために何ができるかを考え、また、何ができたかを発表する機会も設けられており、理念を共有するための取り組みが図られている。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所周辺の環境整備を積極的に行ったり、町内会に加入して神社の掃除を地域の人と一緒にしたりしながら、事業所への理解促進を図ってきた。その後も、事業所で作っているお便りを家族や地域に配布するなかで、理念の理解を深めるための取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所も町内の一員として、地域の防災計画に加えてもらったり、回覧板を回しあったりしている。地域で行う敬老祭や祭りにも、利用者が地域の一員として参加して、事業所、利用者で地元の人々との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価についての理解を深めるため、自己評価は毎年、職員が分担しながら作成している。全体的な理解を図っていくため、分担する範囲は毎年変えられている。評価結果に対しては職員全員で話し合っ、改善策を立てている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議へは、評価の取り組み状況や職員教育の内容も報告されている。また運営は、報告に終始しないよう、意見交換に重点が置かれており、実際に様々な質問や意見が委員より出されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の出張機関である総合事務所が事業所の近くにおいて、運営推進会議以外においても、市の担当者へ気軽に電話をしたり、お互いに行き来する機会がある。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に関する研修会を年間研修計画に毎年組み込んでおり、権利擁護に関する外部研修にも職員が参加している。日常的には管理者が言葉の虐待も含めて、その防止のための注意を促している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の金銭管理報告に合わせて、利用者の日常の暮らしぶりや行事の様子を写真を添えて報告している。遠方の家族には、写真を飾ってもらえるよう拡大印刷して送付するなど配慮をしている。健康状態は、状態変化や受診の都度、看護職員を中心として報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画の同意を得る際には、同時に書面にて家族からの要望を聞くようにしている。事業所の運営に関しては、面会や連絡など家族との接点があるときに、意見や気になることはないかなど積極的に聞いている。		サービスの質の更なる向上のため、家族からは直接ホームには意見を伝えるにくい場合もあるということを考慮し、家族が意見を言いやすい外部窓口の整備や利用促進についても話し合うことを期待したい。
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は会議などにおいて率直な意見を出し合っていて、運営にも生かされている。サービスの向上において優れた意見を提案した場合には、褒賞されるなど職員の意見や意欲を引き出す取り組みがなされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を維持するため、職員の異動は極力避けており、異動を行なう場合も1名ずつとしている。さらに、異動の職員と利用者との継続的な交流が図られるようにも取り組んでいる。職員の離職はほとんどないため、これに関する利用者への影響はない。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しも適宜行われている	ISO9001を取得しており、その基準に応じて各種マニュアルが整備され、見直しも行われている。項目によってはISO9001の求める基準以上の具体化したマニュアルも作成しており、職員にも配布されている。各種マニュアルは事務室に番号が振られ閲覧しやすいように管理されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新採用時の研修がある他、毎月ある内部研修会が定められたテーマによって実施されている。専門的な研修テーマには外部講師を招いて開催している。外部研修にも積極的に参加しており、内容に沿った職員派遣を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所間においては、合同で研修会をするなどの交流がある。他事業所の開設時の研修受け入れの依頼がよくあり、労を惜みまず積極的に受け入れを行なっている。事業所で行なう研修会の内容によっては、他の事業所にも参加してもらうよう案内を出している。		他事業所に対して研修の場を与える一方ではなく、ネットワークづくりや相互訪問などの活動に発展させて、サービスの質を向上させていくための取り組みが期待される。
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間では何でも言い合える関係があって、ストレスをあまり感じない職場環境がある。管理者もその環境づくりを推進しているし、職員の休憩室も確保されている。また、優れた提案への報奨制度は職員のやる気にもつながっている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みの際には、実際に事業所に来て見学をしてもらってから申し込みするか判断をもらっている。利用時には、契約書などを前もって送付して、来所時に疑問点に答えながら説明をして、事業所の理解を深めている。利用者が馴れるまで家族と一緒に泊まるケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人と共に過ごしあう関係づくりのため、例えば漬物のつくりかたなどを利用者から教えてもらうなど、利用者から学ぶ姿勢を持ってケアにあたることを意識しながら取り組んでいる。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	精神的な面において家族の代わりは職員にはできないと認識し、家族へは面会などを通じて、本人とこれまでどおりかかわってほしいと強くお願いをしている。家族面会時は、居心地よく過ごせるよう、細かな気配りのもと接待がされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望などは、センター方式のアセスメントを活用して、本人及び関係者、職員からの聞き取りなどによって把握している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方などは、センター方式のアセスメントを活用して、本人及び関係者、職員からの聞き取りなどによって把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや意向、これまでの暮らし方が詳細に把握されており、より良く暮らしていくために、必要な関係者と話し合いながら、個別の介護計画を作成している。		地域でのその人らしい暮らし方が十分に把握されており、それを継続させるための実践も、随所に行なわれている。このことが計画上でも表せると整合性が保たれ、より客観的な理解が深まることと思う。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリング会議を実施しており、介護計画の期間に応じた見直しを行っている。計画が状態に合わなくなれば、その都度の状態に合わせて見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。		
つど					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の負担を考慮して、重い症状の時を除いて、職員にて受診の付き添いを行っている。入院時には、看護職員が早期退院のために病院との連絡調整を行なっている。現在、共用型のデイサービスも行なっており、多機能性を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長く生活を見てきた自宅でのかかりつけ医師との関係維持に努めている。近くには協力的な診療所もあり、定期的な往診があり、詳しい病状説明や生活面でのアドバイスも受けられ、ケアの参考となっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護職員の巡回や緊急時の対応がとれる事業所であり、個別のケースに応じて、本人や家族、かかりつけ医や看護職員などで話し合っ、本人や家族の希望に向けた支援を、できる範囲のなかで行い重度化に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないよう、日頃から管理者を中心として注意喚起されている。個人情報に関する取扱いも定められていて、守秘義務などが果たされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日々の利用者担当を決めており、担当者が利用者とその日の希望を聞きながら、できるだけ希望に沿った支援を行うようにしている。希望が出てこないときもメニューなどを示しながら、意向表出に向けた働きかけをしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食4品以上の副食が新鮮な食材の使用のもと、手がかけられながら用意されている。食事の準備や片付けに、利用者もその人のもつ力に応じて参画している。職員は利用者と食事を共にして、食材の話などしながら楽しい雰囲気ですすめている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	一人ひとりの排泄パターンとできる事を把握した対応が行なわれている。各居室にトイレが備え付けられていて、プライバシーもしっかりと守られている。介護の際は蒸しタオルを使用して清潔の保持に努めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後から時間の幅を持たせて設定している。利用者からは昼間の入浴は贅沢であると喜ばれている。重度の方の入浴は介護の手を厚くしながら対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	敷地内に農園があり、可能な利用者は収穫をしたり、収穫した野菜の調理などを行っている。現在ある一人ひとりの力に応じて、洗濯物たたみやお盆拭きなどをしており、張り合いのある生活ができるよう支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って天候がよければ、日常的に散歩に出掛けている。事業所からの散歩コースは5コースが設定されている。また、ベランダに自由に出ることができる環境があり、ベランダは車椅子でも出られるようにと改修が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から、利用者のどんな行動においても制限をしないことを徹底しており、毎年、身体拘束をしないケアのための研修会を行ないながら、自由を保障したケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	気候の良い時は玄関を日中開放しており、利用者の自由な出入りがあり、来訪者の様子も分かるようになっている。しかし、寒い時期には板戸で寒気が入らないようにされて、また、現在、感度が良く木の影や落ち葉の少しの動きにも反応し開いてしまうことから寒さ対策のため玄関の自動ドアの電源が切られており、出入りのしづらさがある。		自動ドアの感度を改善するか、あるいは、事情を分かりやすく説明する方法を取るなどして、出入りのしやすさを確保することについて検討してほしい。
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告があった時には原因を明らかにして、対策については日々のミーティングなどを活用して、職員間で話し合って再発防止に努めている。危険防止のための引継ぎは、連絡帳によっても行なわれるが、分かりやすくするために図で示すなどの工夫もしている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	年に4回、看護職員を講師として応急手当など急変や事故発生時に備えた訓練が行われ、職員も実際に対応できるまでになっている。事業所に人工呼吸用のマウスピースも用意されており、急変時への備えがある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	災害別の対応マニュアルが整っていて、消火、避難などの災害時の訓練を毎月行っており、連絡網がきちんと機能するかの確認もしている。。地域の防災計画に事業所も入れてもらっており、協力も得られるようにしている。		地震など地域災害も想定して、災害時の備蓄のあり方について事業所で検討し、必要な対応をとることも今後望みたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが整った献立により食事が調理されており、食べた量などは個別記録に記載しながら把握している。食事は油料理を避けたり、飲み込みなどの状態に応じて、おかゆや刻みにより提供されている。水分量も1日の目安を定めて確保できるようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りから建物内の共用空間にいたるまで、季節の草花や利用者と一緒に作った作品で装飾されており、居心地よく過ごせる工夫がなされている。利用者が自宅で使っていた不用品を、別の用途で使えるようにして置くなど馴染みの空間づくりもされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者が自宅などで使い慣れたタンスや家電製品、布団などが持ち込まれており、その人なりの空間となっている。職員による誕生日のお祝いを装飾したり、昔の記念写真を拡大して飾るなどして、本人が居心地よく過ごせるような工夫が見られる。		